

科目名	国際メディア論特講	担当者	コンドウ 近藤 モトヒロ 大博	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>時代の変化とメディア，特に新聞や雑誌の論調の変化を探る。論調・報道と現実の動きの相互関係を検証することにより，メディアの重要性を認識する。と同時に日本近代史の理解を深める。</p> <p>時代の流れや経営上の要請により，メディア・情報・論調が変容する様相を把握し，メディアの発達・変化がいかに時代を動かしたか，動かすかを理解する。かつ，学問，知識人，世論，政治とメディアのあり方，及びそれぞれの関係を問い直す。また，日本の報道・評論と諸外国のそれらとの相違の原因を追及する。</p>		
到達目標	<p>メディア・情報に内在する問題を，歴史的に整理し，歴史認識・対外認識・自国イメージを形成するさい，陥りやすい陥穽を解明し，かつメディアの今後の方途を探り，メディア・リテラシーを高める。</p>		
学修方法	<p>レポート課題に沿って，教材や参考図書を読み込み，自らが問題点を抽出し，その問題を論ずるに必要な文献・資料を検索・整理し，それに対する考え方をレポートとしてまとめる。その過程で，疑問点などに関し，教員にメールなどで相談・質問する。教員から，適宜，メールなどにて伝達される情報・補助教材を活用する。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末，課題(2)は8月末を目途に提出する。問題設定については，草稿としてまとめる前に，メール等で，教員と相談すること。いずれのレポートも9月中旬までに最終稿を提出すること。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬，課題(2)は12月中旬を目途に提出する。問題設定については，草稿としてまとめる前に，メール等で，教員と相談すること。いずれのレポートも2017年1月課題提出締切日までに最終稿を提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポート内容を，問題設定・論理的展開・歴史的展開・問題提起の面から検討し，全体の記載方法，注・参考文献の適切性・記載方法，最新の研究の反映や自らの研究分野との関連性などを評価する。
	平常評価	20%	スケジュールの遵守の度合，メールの送受信の状況，質疑応答の内容などを勘案する。
履修者への要望	<p>自らが最も有用と想定する新聞・月刊総合雑誌を定期購読することが望ましい。外国の新聞・雑誌，WEBに恒常的に接することが望ましい。</p> <p>そのおり，持つにいたった疑問・問題に関し，電子メールを活用し，積極的に教員と討論すること。レポートの題材・テーマは，自身の研究に資するように努めること。</p> <p>レポート作成の作業に入る前に，題材・テーマなどについて，教員と相談すること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 朝日新聞社「新聞と戦争」取材班 教材名： 『新聞と戦争』上（朝日新聞出版，2011年）ISBN:978-4-02-261701-9 780円+税 著者名： 朝日新聞社「新聞と戦争」取材班 教材名： 『新聞と戦争』下（朝日新聞出版，2011年）ISBN:978-4-02-261702-6 780円+税
	朝日新聞による戦前・戦中期の同紙の報道内容の検証。軍国主義下，新聞の取材・編集現場と経営陣の葛藤，広告と部数拡大の実態，新聞と民主主義・自由の価値，世論との相互関係等々についての歴史の教訓。かつ現在の新聞にも通底する問題を示唆する。
参考図書	今西光男『占領期の朝日新聞と戦争責任』（朝日新聞出版，2008年） ISBN:978-4-02-259940-7 1,400円+税 河内孝『新聞社』（新潮社，2007年）ISBN:978-4-10-610205-9 700円+税 大治朋子『アメリカ・メディア・ウォーズ』（講談社現代新書，2013年） ISBN:978-4-06-288227-9 780円+税
履修上のポイント	新聞論調を論ずる前に，歴史・時代の流れを把握すること。商品としての新聞の特性・限界とジャーナリズムの使命の関係を意識すること。 基本教材・参考図書としてあげないが，ネット上の情報をもおおいに活用すること。
レポート課題 1	基本教材のうち，もっとも印象的だった章について，その概要を紹介し，かつ取り上げた理由を叙述せよ。（3,000字程度） 留意点： 過去の新聞を現在の時点から断罪するのではなく，かつ「やむをえなかった」などと諦めることなく，あくまでも現在・将来に通用する新聞像及びその役割を求めること。
レポート課題 2	基本教材が示す事象を教訓として，現代における理想の新聞像を明示せよ。（3,000字程度） 留意点： 情報のすべてが商品である今日，発信源の経営が成立しなくては，情報を供給できなくなる。情報の質・精度を高めることと収益性を高めることは，ときに矛盾・相克が生じることを意識すること。かつ，活字媒体の使命，それらが生き残る方途をも考察すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 青木保 教材名： 『「日本文化論」の変容』（中央公論新社，1999年） ISBN:978-4-12-203399-3 590円+税
	戦後の日本人論・日本文化論の展開と軌跡をたどり，経済的発展と日本人の自画像を描く営みの関係を考察する。日本人の対外認識，外国人による日本・日本人論に潜む偏見とそれらが生じる原因を考察する。
参考図書	文春ムック『文藝春秋オピニオン 2014年の論点100』（文藝春秋，2014年） ISBN:978-4-16-008615-9 1,300円+税 小池和男『日本産業社会の「神話」』（日本経済新聞出版社，2009年） ISBN:978-4-532-31435-4 1,800円+税 竹内洋『革新幻想の戦後史』（中央公論新社，2011年）ISBN:978-4-12-004300-0 2,800円+税
履修上のポイント	日本人による日本論，外国人(たとえばアメリカ人)による日本論の相違が生じる理由・背景を把握するよう努めること。また，日本人による外国論(たとえばアメリカ論や中国論)と外国人(たとえばアメリカ人や中国人)による日本論の相違が生じる理由・背景を把握するよう努めること。 上の営為は，国際関係を考究するさいに，肝要な，客観的な自国分析・他国把握を可能にする。
レポート課題 1	基本教材の4つの区分のうち，一つの時期を取り上げ，その特徴を論述せよ。（3,000字程度） 留意点： その時期が，現在の論調や日本・日本人の自己認識(自画像)といかなる関連・関係があるかを考察すること。
レポート課題 2	基本教材の問題提起を踏まえ，新聞・雑誌・テレビなどでの，現在の日本人による外国に関する報道・評論を，または外国人による日本に関する報道・評論を，批判的に考察・論述せよ。（3,000字程度） 留意点： 対象としやすいのは，雑誌論文である。対象の設定にあたっては，事前に教員と相談すること。また，各自の研究に資するような題材にすること。